昭和30年代中頃（1960年頃）まで

漁業が盛んだった時代

葛西沖の豊かな海は、古くから人々の暮らしと深く関わっていました。
江戸時代の古文書に、この地で700年前から漁業が営まれていたことが記されています。

漁業

夏場はアサリ、ハマグリなど江戸前の魚介類が水揚げされ、冬場は名産の「葛西海苔」が収穫される豊かな漁村でした。

沖合には海苔を育てる「竹ひび」と、何百艘もの船、陸には海苔干しのよしずが連なる景色が広がっていました。

昭和30年頃（1955年頃）
アサリやハマグリを採る腰まき漁

昭和29年（1954年）
海苔ひび立て

レクリエーション

葛西沖は行楽の場でもあり、春は潮干狩り、夏は海水浴、秋はハゼ釣り、冬は「すだて」と呼ばれる舟遊びで、東京一円からの観光客で一年中賑わっていました。

三枚洲と呼ばれる干潟には水鳥なども多く生息しており、様々な生き物にとっても、その生存を支える重要な場となっていました。

昭和25年（1950年） 葛西の海

昭和30年頃（1955年頃） 葛西浦 潮干狩り

昭和30年～45年頃

海の汚染や地盤沈下などが深刻化した時代

この頃、東京の都市化に伴う様々な課題が噴出する時代に突入します。

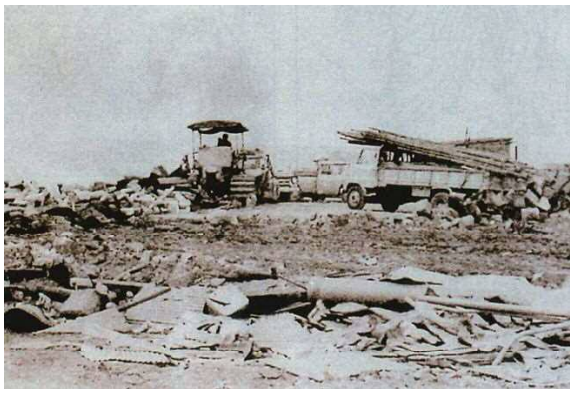
海の汚染

東京への人と産業の集中、工場からの排水などによって東京湾の汚染が進みました。葛西沖でも魚介類が採れなくなり、漁業が成り立たなくなりました。昭和40年には、かつて栄えた漁村は姿を消しました。

ごみの山

海に面した葛西地区は、高潮や台風による浸水被害も多かったため、昭和32年に延長4,450mの海岸堤防がつくられました。

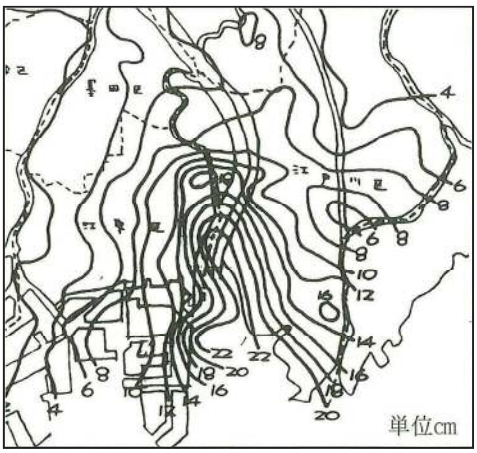
防潮堤の背後地では道路や鉄道の整備も進まず、常時水が溜まった未利用地となっており、高度経済成長期の建設ラッシュで大量に発生した残土や産業廃棄物が捨てられていました。



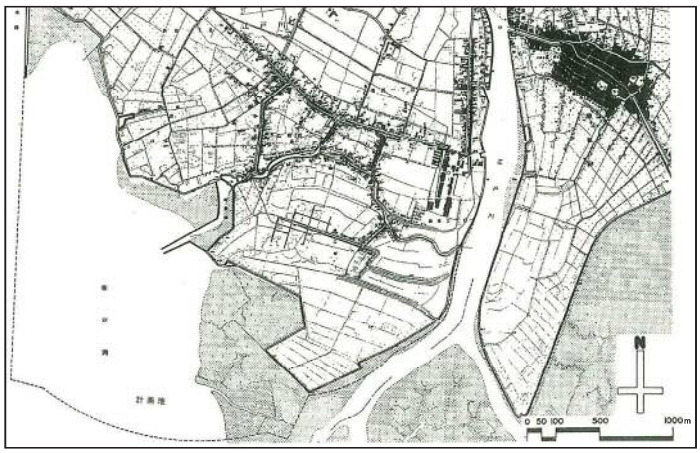
葛西沖の背後地でのごみ投棄・処分

地盤沈下

明治時代からの地下水の汲上げによって地盤沈下が進み、葛西地区では178haもの民有地が水没していました。



昭和43年（1968年）
地盤沈下年間変動量



昭和30年代（1955年頃）
葛西沖地図

昭和45年頃～平成元年頃

自然回復の取組～葛西海浜公園の誕生

昭和44年（1969年）に、東京都はこの地域の開発構想の検討に着手しました。この頃には、都市化の進展に伴う自然環境の喪失に危機感を抱く声が高まり、自然保護や公園整備などの取組が全国的に加速します。

葛西海浜公園はこういった流れの中で誕生します。

自然と調和した葛西沖開発

東京の海の埋立てが進む中で、葛西の海だけが自然の姿をとどめていました。様々な団体から、三枚洲の保全やそこに生息する生き物の保護を訴える声が高まってきました。

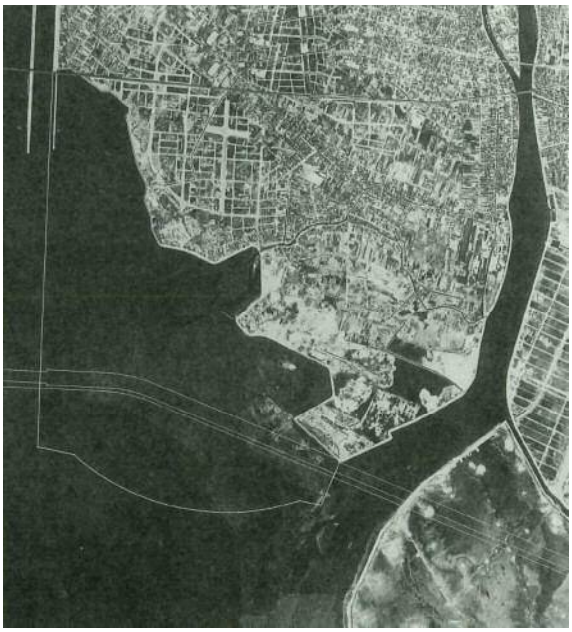
昭和47年、水没した土地の復元と、新たな土地の創造を行い、豊かな自然と都市機能が調和したまちをつくることを目的とする、「葛西沖開発土地区画整理事業」が始まりました。

土地区画整理により、水没していた民有地が復活するとともに、公有水面の埋立てによって348haの新たな土地が生み出され、まちの動脈となる道路や、公園・緑地の整備も進みました。

葛西海浜公園の整備

葛西沖開発の一環として、三枚洲の自然回復を目的に葛西海浜公園が整備されます。この公園は昭和55年（1980年）に本格的な整備が始まり、平成元年にオープンしました。

三枚洲を中心とする自然環境を回復・保全するために東西2つの人工なぎさが整備されました。



昭和47年（1972年）施行前の葛西沖

平成7年（1995年）施行後の葛西沖

現在

干潟の豊かな自然

このような経緯で誕生した葛西海浜公園では、多くの方々の取組により豊かな自然が回復しています。

東京湾の最奥に残された豊かな生態系

この干潟は、多くの野鳥をはじめ様々な生き物の生命を支えています。

毎年冬に飛来する数万羽のスズガモの群れやカンムリカイツブリは、この干潟で見られる特徴的な生き物です。このほかにも、クロツラヘラサギなど世界的に希少な野鳥や、ミサゴやトウネンなど東京都で絶滅が危惧されている野鳥が飛来しています。

スズガモの群れ

海から陸へと連続性のある干潟環境

東なぎさの干潟の背後には、広大なヨシ原が広がっており、トビハゼなどの魚類やカニの仲間の格好のすみかとなっています。また、オオヨシキリやチュウヒなど、ヨシ原を好む野鳥が多く飛来しています。

東なぎさのヨシ原

大都市近傍にある生き物の楽園

葛西海浜公園は、東京駅から電車でわずか15分。大都市の一隅で、これほど豊かな自然環境が保全されているのは世界的にも数少ない事例です。

この干潟は、東京のみならず首都圏に暮らす人々にとってとても身近な存在であり、将来にわたって多くの人々が気軽に海の自然や文化と触れ合うことができる貴重な場所になっています。

自然観察会の様子

現在

干潟での様々な活動

葛西海浜公園では、海の文化の継承や環境学習など、様々な活動も行われています。（下記は現在行われているイベントの例です。開催時期などは今後変更される場合があります。）

▶ 海苔すき体験

地元の小学生が参加し、かつての名産「葛西海苔」を身近な海で育て、「海苔すき」を体験することで地域の歴史や環境を学ぶ活動が実施されました。（「江戸川の海をもっともっと知ろうプロジェクト協議会」）

▶ 竹ひび設置活動

竹の幹に竹の枝を束ねてくくりつけた古式漁具の「竹ひび」に、水質浄化効果を持つカキが生息することで水質を浄化する「里海里山連携プロジェクト（竹ひび1人1本活動）」がNPOによって進められています。

▶ 海水浴体験（7月後半から8月）

主に夏休み期間中に海水浴の体験ができます。この期間はNPOなどと連携し安全対策や運営を行っています。

葛西沖の歩み

▶ 潮干狩り

潮の干満の差が大きくなる春から初夏にかけて、潮が引いた干潟でアサリやハマグリなどの貝類を採ることができます。

※用具や採取量に制限があります。

▶ 海浜清掃（3月～11月）

NPOの呼びかけにより、3月～11月にかけて毎月1回、西なぎさのごみ拾いを行っています。

また、普段は人が立入れない東なぎさについては、5月と11月に漁業関係者や自然保護団体などの協力により船で渡り、漂着ゴミを取り除く作業を行っています。

きれいな砂浜の維持活動と併せて、干潟の魚介類、鳥類、植物の観察会も行われます。

▶ 野鳥観察会（12月・2月）

NPOとの協働により、東なぎさや西なぎさを訪れる野鳥の観察会を行っています。